市中の薬局・薬店からみた住民の薬・健康食品に対する 態度とその近年の変化

杉沢 秀博* 山崎喜比古**

Recent Changes in Public Attitude Toward Drugs and Health Foods as Seen through the Eyes of Drug Stores' Pharmacists

Hidehiro SUGISAWA* and Yoshihiko YAMASAKI**

In order to better understand changing public attitudes toward drugs and use of health foods, 69 pharmacists running drugstores in 2 Tokyo areas were interviewed, and the following results were obtained:

1. In recent years, they found people are increasing knowledgeable about drug usage and desire details information.
2. These three mistaken or rather ineffective drug using patterns were found to be common: a) to fear side-effects unnecessarily, b) to expect too much of the medicine's effectiveness, c) to rely on OTC drugs without consulting a doctor even in serious cases.
3. Recently the demand for chinese herbal medicines continues to be increasing, while comparatively the demand for health foods and dietary products has leveled off.
4. Both the users of health foods and the consumers of dietary products tend to make more mistakes in drug usage than do the users of Chinese medicines.
5. As to the current high interest in health, the interviewees pointed out two types of backgrounds among their consumers; an increasing awareness of unhealthy influences and a general increasing interest in health related issues.

I 結 言

健康への関心や不安の高まりに伴い、近年、大衆薬や漢方薬、健康食品への住民の期待や需要が強まっているといわれている。しかし、住民の間に、薬や健康食品に対する正しい考え方や利用法が普及しているとはいえず、近年における薬や健

康食品の需要を支える住民の意識に問題が多いとの指摘がみられる（青山1977, 内山1982, 伊藤1984）。

こうした状況を鑑み、本研究の目的は、近年における薬や健康食品への需要を支える住民の意識の実態と問題点の解明の手がかりとするために、
①薬や健康食品、ダイエット食品に関する住民の

* 東京都老人総合研究所社会学部福祉医療研究室

* *Section for the Study of Health Behavior and Health Services Department of Sociology Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology*

** 東京大学医学部保健社会学教室

** *Department of Health Sociology, Faculty of Medicine, Tokyo University*

態度にどのような変化がみられ、そこにはどんな問題があるのか、②薬や健康食品への期待や需要の背景にある近年の健康への関心や不安の特徴はなにかを分析・検討することにある。本研究は、上記の2点を、市中の薬局・薬店の薬剤師からの情報をもとに分析している点で特徴がある。そのことのもつ利点は以下の2点にある。第一は、薬局・薬店は、住民の薬や健康食品に関する相談先として重要な位置を占めているため（伊藤1984, 京都府衛生部業務課1982）、これらに関する住民の態度を具体的にかつ集約的に知りうる立場にあること、第二には、薬剤師は、薬や健康食品に対する住民の態度が誤っているか否かについて、薬の専門家という立場からある程度整理できている人たちであることである。ただし、市中の薬局・薬店の薬剤師からの情報には、薬の販売者としてのバイアスがかかっていることも考えられるため、結果の考察にあたっては注意を要する。

II 調査対象と方法

調査は、地域特性が異なる、東京都南部に位置するA地区と、山の手に位置するB地区の2地区で、それぞれの地域薬剤師会の協力を得て実施した。1985年の国勢調査結果をもとに両地区の概要を記す。A地区の人口は約26万人で、年齢別人口割合は、生産年齢人口割合が73.0%、老年人口割合が8.9%であった。就業者中の産業大分類別人口割合については、「製造業」に就く者が全体の31.7%と最も多く、次いで、「卸売・小売・飲食業」が23.9%、「サービス業」が19.3%などであった。就業者中の従業上の地位別人口割合については、「役員」が6.8%を占めていた。他方、B地区は、人口約5万5千人で、年齢別人口割合は、生産年齢人口割合が72.8%、老年人口割合が12.8%と、A地区と比べて、全人口に占める高齢人口の割合が高かった。就業者中の産業大分類別人口割合については、A地区と異なり、「卸売・小売・飲食業」に就いている者が35.8%と最も多く、「サービス業」が29.3%とつづく。就業者中の従業上の地位別人口割合をみると、「役員」が12.6%を

占め、B地区の2倍であった。

両地区とも、薬剤師会の会員名簿に基づき、病院に併設されている薬局と薬種商を除く全員、A地区50店、B地区30店の、原則として店主を対象に調査した。調査方法は、訪問面接法で、質問内容は、訪問前に対象者宛に郵送した。調査は、1986年6月中旬に行ない、A地区については、50店中47店、B地区については、30店中26店、計80店中73店（回収率91%）から回答を得た。73店中、薬剤師でないものが面接に応じた店は4店あった。分析は、この4店を除く69店について行った。自由回答法での質問については、すべての回答をカテゴリー分けしたうえで集計した。なお、質問文は最後に添付した。

III 調査結果

1. 分析対象者の属性・背景

回答者の性別・年齢別構成と地域内での従業年数の分布を表1に示した。

処方箋調剤と大衆薬の販売高割合の合計が5割以上の薬局・薬店は71.0%であった。すなわち、処方箋調剤と大衆薬の販売高は店によって異なるが、薬を主体にしている点ではどの店も同じ傾向を示し、健康食品・ダイエット食品、その他雑貨類の販売は全体の一部であった。

薬局・薬店の利用者の地域分布は、処方箋を持参する人については、地元の人の方が多いとする店が61.7%、処方箋を持参しない人についても、地元の人の方が多いとする店が69.7%を占めた。

2. 薬に関する知識や利用の状況

表2は、「薬の副作用を必要以上に警戒する利用者」「薬に期待をかけすぎる利用者」「医者にいった方がよいのに売薬ですまそうとする利用者」がそれぞれどれほどいるかを尋ねた結果を示したものである。「薬の副作用を必要以上に警戒する利用者」と「医者にいった方がよいのに売薬ですまそうとする利用者」については、「かなりいる」と「ときどきいる」と回答した者の合計がそれぞれ91.3%と86.9%であるのに対し、「ほとんどいない」がいずれも10%程度と少なかった。「薬に期待

表1 回答者の性別・年齢階級別構成と地域内での従業年数

年齢	性		従 業 年 数						
	男	女	1—10	11—20	21—30	31—40	41—	無回答	計
20—39	13	1	9	4	0	0	0	1	14(20.3)
40—59	22	6	3	7	12	5	0	1	28(40.6)
60—	21	6	0	1	8	14	4	0	27(39.1)
計	56(81.2)	13(18.8)	12(17.4)	12(17.4)	20(29.0)	19(27.5)	4(5.8)	2(2.9)	69(100.0)

表2 「薬の副作用を必要以上に警戒する」「薬に期待をかけすぎる」「医者にいった方がよいのに売薬ですまそうとする」利用者の頻度

	薬の副作用を必要 以上に警戒する利用者	薬に期待をかけ すぎる利用者	医者にいった方がよいのに 売薬ですまそうとする利用者
かなりいる	12(17.4)	14(20.3)	5(7.2)
ときどきいる	51(73.9)	41(59.4)	55(79.7)
ほとんどいない	6(8.7)	13(18.8)	8(11.6)
無回答	0(0.0)	1(1.4)	1(1.4)
計	69(100.0)	69(100.0)	69(100.0)

をかけすぎる利用者」の場合は、「かなりいる」と「ほとんどいない」がそれぞれ20.3%も18.8%で意見が分かれた。

次に、「薬の副作用について質問や相談する利用者」「利用者の薬についての知識や利用法」「薬の副作用を必要以上に警戒する利用者」「薬に期待をかけすぎる利用者」それぞれについて、4、5年前と比べて増えているかそれとも減っているかを尋ねた。どの項目とも、「やや減っている」または「かなり減っている」という者の合計が全体の7%を超えなかった。しかし、「利用者の薬についての知識や利用法」と「薬の副作用を必要以上に警戒する利用者」については、4～5年前と比べて「かなり増えている」もしくは「やや増えている」との回答が全体の50%を超えているが、「薬に期待をかけすぎる利用者」については30%程度にとどまった(表3)。

ところで、薬の副作用について質問や相談をする利用者が4～5年前と比べて「かなり増えている」または「やや増えている」と回答した計43名が、このことをどう評価しているかを尋ねた。「いい傾向である」または「どちらかといえばいい傾向である」と肯定的に評価している者が計26人で

全体の60.4%であるのに対して、「よくない傾向である」と否定的に評価している者が2人だけであった。

次に、自由回答法によって、具体的にどのような利用者が「薬に期待をかけすぎる利用者」の例にあたるかを尋ねた。「生活調整をしないで薬だけで病気をなおそうとする」「薬ですぐに病気がなおと思っている」「薬は何にでも効くと思っている」など様々な事例が紹介された(表4)。

表5に、4～5年前と比べて利用者が薬に対する正しい知識や利用法を身につけてきているかどうかという質問で、「身につけてきている」と回答した36名が、どのような点にそれを感じるのかを示した。「健康や薬に関連する雑誌や本、新聞の記事を読んで知識が増えてきている」「薬の名前、効能、副作用などを詳しく知っている」など、薬の知識量や情報量が増えたことを指摘する者が多かった。

さらに、医者に行った方がよいと思われるのに、売薬ですまそうとしている利用者が「かなりいる」または「ときどきいる」と回答した計60名に、どのような理由で行かないと思われるかを尋ねた。「忙しくて暇がないから」との指摘が78.3%で、他

表3 「薬の副作用についての質問や相談をする」「薬についての正しい知識や利用法を身につけている」「薬の副作用を必要以上に警戒する」「薬に期待をかけすぎる」利用者の4～5年前の頻度との比較

	薬の副作用について質問や相談をする利用者	薬についての知識や利用法	薬の副作用を必要以上に警戒する利用者 ¹⁾	薬に期待をかけすぎる利用者 ²⁾
かなり増えている	13(18.8) (みにつけてきている)	36(52.2)	11(17.5)	5(9.1)
やや増えている	30(43.5)		25(39.7)	14(25.5)
あまり変わらない	22(31.9)	28(40.6)	20(31.7)	30(54.5)
やや減っている	3(4.3)		2(3.2)	3(5.5)
かなり減っている	0(0.0) (むしろへっている)	4(5.8)	2(3.2)	1(1.8)
無回答	1(1.4)	1(1.4)	3(4.8)	2(3.6)
計	69(100.0)	69(100.0)	63(100.0)	55(100.0)

1) 質問対象者は、表2の、薬の副作用を必要以上に警戒しすぎる利用者が、「かなりいる」または「ときどきいる」と回答した計63名である。

2) 質問対象者は、表2の、薬に対して期待をかけすぎる利用者が、「かなりいる」または「ときどきいる」と回答した計55名である。

表4 薬に期待をかけすぎる利用者の具体例(自由回答法)¹⁾

内容分類	
・生活調整をしないで薬だけで病気をなおそうとする	17(30.9)
・薬ですぐ病気がなおと思っている	13(23.6)
・薬は何にでも効くと思っている	11(20.0)
・飲まなくていいのに飲んでい	8(14.5)
・医療の専門家の意見も聞かずに薬を使おうとしている	4(7.3)
・分類不能	3(5.5)
・無回答	2(3.6)
質問対象者数	55(100.0)

1) 質問対象者は、表2の、薬に対して期待をかけすぎる利用者が、「かなりいる」もしくは「ときどきいる」と回答した計55名である。

表5 利用者が薬に対する正しい知識や利用法を身につけていると感じる点(自由回答法)¹⁾

内容分類	
・健康や薬に関連する雑誌、本、新聞の記事を読んで、知識が増えてきている	8(22.2)
・薬の名前、効能、副作用などを詳しく知っている	7(19.4)
・薬についての質問を良くするようになった	7(19.4)
・服用規定を良く守るようになった	5(13.9)
・薬の使い方がうまくなった	4(10.3)
・分類不能	5(13.9)
質問対象者数	36(100.0)

1) 質問対象者は、表3の、利用者が薬についての知識や利用法を4～5年前と比較して「身につけてきている」と回答した36名である。

の項目への指摘率を大きく上回っていた(表6)。

3. 漢方薬・健康食品・ダイエット食品に関する知識や利用の状況

表7には、漢方薬・健康食品・ダイエット食品それぞれについて、求める傾向が4～5年前と比べて強まっているかどうかを尋ねた結果を示した。漢方薬を求める傾向については「かなり強まっている」と「やや強まっている」との回答が合わせて46.4%であるのに対し、「やや弱まっている」と「かなり弱まっている」との回答が合わせて23.2%と少なかった。しかし、健康食品とダイエツ

ト食品については、「かなり強まっている」または「やや強まっている」とした者の合計が、それぞれ34.8%と28.9%、「やや弱まっている」または「かなり弱まっている」とした者の合計がそれぞれ34.8%と20.3%と評価が分かれた。

さらに、漢方薬や健康食品、ダイエット食品の利用者の知識や利用法に問題があると感じた経験の有無を質問した結果では、問題を感じた経験が「よくある」と回答した者が、漢方薬では15.9%であった。これに対して、健康食品とダイエット食品の場合は、それぞれ35.1%と28.8%と漢方薬と

比べて多かった(表8)。

さて、漢方薬と健康食品について、それらを求める傾向が「かなり強まっている」または「やや強まっている」と回答した者が「強まっている」理由としてどのような要因を指摘しているかについてみてみた。漢方薬では、「漢方薬は効き方が穏やかで、副作用が少ないと思われるから」との回答が75.0%、他方、健康食品については、マスコミの影響が大きい」との回答が79.2%と、他の項目への指摘率を大きく上回っていた(表9, 表10)。

漢方薬・健康食品・ダイエット食品について、利用者の考え方や利用法に問題があると感じた

表6 医者にいった方がよいのに売薬ですまそうとする理由(選択肢法, 2個以内複数回答)¹⁾

選 択 肢	
・忙しくて暇がないから	47(78.3)
・医者に行くのが面倒だから	24(40.0)
・医者が嫌いだから	13(21.7)
・病気になることへの不安から	12(20.0)
・病気のことを軽くみているから	10(16.7)
・医者に対する不信感から	4(6.7)
・その他	4(6.7)
質問対象者数	60(100.0)

1) 質問対象者は、表3の、医者にいった方がよいと思われるのに売薬ですまそうとする利用者が、「かなりいる」または「ときどきいる」と回答した計60名である。

表7 漢方薬・健康食品・ダイエット食品を求める傾向の4～5年前との比較

	漢 方 薬	健 康 食 品	ダ イ エ ャ ッ ト 食 品
かなり強まっている	4(5.8)	8(11.6)	9(13.0)
やや強まっている	28(40.6)	16(23.2)	11(15.9)
あまり変わらない	20(29.0)	13(18.8)	22(31.9)
やや弱まっている	12(17.4)	12(17.4)	10(14.5)
かなり弱まっている	4(5.8)	12(17.4)	4(5.8)
無回答	1(1.4)	8(11.6)	13(18.8)
計	69(100.0)	69(100.0)	69(100.0)

表8 漢方薬・健康食品・ダイエット食品の考え方・使い方に問題があると感じた経験

	漢 方 薬	健康食品 ¹⁾	ダイエット食品 ¹⁾
よくある	11(15.9)	20(29.0)(35.1)	17(24.6)(28.8)
ときどきある	38(55.1)	25(36.2)(43.9)	25(36.2)(42.4)
ほとんどない	19(27.4)	12(17.4)(21.1)	17(24.6)(28.8)
無回答	1(1.4)	12(17.4)	10(14.5)
計	69(100.0)	69(100.0)	69(100.0)

1) 無回答の理由の多くが、この商品を扱っていないため、評価はできないということであったので、無回答者を除いて、各選択肢への選択割合を算出した数値も示した。

経験が「よくある」もしくは「ときどきある」と回答した者に、その具体例を尋ねた。漢方薬では、「漢方薬は副作用がないとか、無害だと思っている」との回答が55.1%ともっとも多かった(表11)。健康食品については、「医薬品と同じような効能・効果を期待している」との回答が40.0%ともっと

も多かった(表12)。ダイエット食品については、「食事の制限などをせずに、ダイエット食品だけで痩せようとしている」との回答が47.6%と他の項目への指摘率よりも高かった(表13)。

表14に、健康食品とダイエット食品について、これを求める傾向が「かなり強まっている」もし

表9 漢方薬を求める傾向が強まっていると回答した理由（選択技法，3個以内複数回答）¹⁾

選 択 肢	
・漢方薬は効き方が穏やかで副作用が少ないと思われるから	24(75.0)
・マスコミなどで漢方薬の効果が盛んに宣伝されているから	14(43.8)
・漢方薬のもつ体質改善の効果を期待して	10(31.3)
・漢方薬が錠剤や顆粒になって飲みやすくなったため	8(25.0)
・大手製薬会社が売り出すなど漢方薬が手軽に買えるようになった	7(21.9)
・漢方薬の持つ自然で神秘的なイメージにひかれて	6(18.8)
・その他	6(18.8)
質問対象者数	32(100.0)

1) 質問対象者は，表7の，漢方薬を求める傾向が4～5年前と比べて，「かなり強まっている」または「やや強まっている」と回答した計32名である。

表10 健康食品を求める傾向が強まっていると回答した理由（選択技法，2個以内複数回答）¹⁾

選 択 肢	
・マスコミの影響が大きい	19(79.2)
・これで健康になれるような気がするから	11(45.8)
・普段の食事で欠ける栄養を補うため	8(33.3)
・手軽さで，てっとり早さがウケているから	2(8.3)
・その他	2(8.3)
質問対象者数	24(100.0)

1) 質問対象者は，表7の，健康食品を求める傾向が4～5年前と比べて，「かなり強まっている」または「やや強まっている」と回答した計24名である。

表11 漢方薬に対する考え方・利用法に問題があるとされる具体例（自由回答法）¹⁾

内 容 分 類	
・副作用がないとか，無害だと思っている	27(55.1)
・雑誌や本などの情報を鵜呑みにして利用している	8(16.3)
・誰にでも同じように効くと思っている	8(16.3)
・ききめが緩慢で弱いと思っている	5(10.2)
・即効性を期待しすぎる	4(8.2)
・その他	7(14.3)
質問対象者数	49(100.0)

1) 質問対象者は，表8の，漢方薬に対する考え方・利用法に問題があるなど感じた経験が，「よくある」または「ときどきある」と回答した計49名である。

表12 健康食品に対する考え方・利用法に問題があるとされる具体例（自由回答法）¹⁾

内 容 分 類	
・医薬品と同じような効能・効果を期待している	18(40.0)
・雑誌，本，訪問販売からの情報だけで利用	13(28.9)
・これにたよって健康の維持や増進を図ろうとしている	9(20.0)
・副作用がないと思っている	9(20.0)
・価格が高いほど良く効くと思っている	4(8.9)
・その他	2(4.4)
質問対象者数	45(100.0)

1) 質問対象者は，表8の，健康食品に対する考え方・利用法に問題があると感じた経験が「よくある」または「ときどきある」と回答した計45名である。

表13 ダイエット食品に対する考え方・利用法に問題があるとされる具体例（自由回答法）¹⁾

内 容 分 類	
・食事の制限などをせずにこれだけで痩せようとしている	20(47.6)
・マスコミや訪問販売の情報だけで利用している	10(23.8)
・体重を減らさなくても良いと思われる人が利用している	5(11.9)
・これですぐに痩せられると思っている	4(9.5)
・体に無理なく痩せられると思っている	2(4.8)
・分類不能	1(2.4)
質問対象者数	42(100.0)

1) 質問対象者は，表8の，ダイエット食品に対する考え方・利用法に問題があると感じた経験が「よくある」または「ときどきある」と回答した計42名である。

くは「やや強まっている」と回答した者に，どのような性・年齢層で強まっていると思われるかを質問した結果を示した。健康食品では，「中年女性」との指摘が66.7%，次いで「中年男性」が20.8%と多かった。ダイエット食品では，「若い女性」との指摘が60.0%と多かった。

健康食品とダイエット食品の利用者は情報をどこから得ていると思うかについては，健康食品，ダイエット食品いずれも，「雑誌や本」と「友人，知人からの口コミ」への指摘率が高く，他の情報源の指摘率を大きく上回っていた（表15）。

表14 健康食品とダイエット食品を求める傾向が強まっているとした性・年齢層（自由回答法）

	健康食品 ¹⁾	ダイエット食品 ²⁾
若い女性(10～20歳代)	2(8.3)	12(60.0)
中年女性(30～50歳代)	16(66.7)	9(45.0)
中年男性	5(20.8)	2(10.0)
老年 (60歳以上)	3(12.5)	0(0.0)
無回答	3(12.5)	1(5.0)
質問対象者数	24(100.0)	20(100.0)

1) 質問対象者は、表7の、健康食品を求める傾向が4～5年前と比べて「かなり強まっている」または「やや強まっている」と回答した計24名である。

2) 質問対象者は、表7の、ダイエット食品を求める傾向が4～5年前と比べて「かなり強まっている」または「やや強まっている」と回答した計20名である。

表15 健康食品とダイエット食品の利用者の情報源（選択技法、複数回答）

選 択 肢	健康食品	ダイエット食品
雑誌や本	49(71.0)	54(78.3)
友人・知人からのくちこみ	40(58.0)	32(46.4)
新聞(折込広告も含む)	15(21.7)	16(23.2)
テレビ	13(18.8)	17(24.6)
訪問販売	12(17.4)	6(8.7)
医師や薬局・薬店のすすめ	5(7.2)	2(2.9)
その他	7(10.1)	9(13.0)
無回答	13(18.8)	13(18.8)
質問対象者数	69(100.0)	69(100.0)

4. 健康への関心の高まりの背景についての考え

次に、今日、健康への関心が高まっているとか、『健康ブーム』とかいわれている社会現象をどのように薬剤師がみているのかについて尋ねた。「健康への自覚や意識が高まってきたため」「生活が豊かになって、健康に関心が向けられるようになった」「ストレスが多い世の中」「マスコミの影響」の4項目への指摘率が50%を超えていた（表16）。

以上の2から4までの調査結果については、地域別に検討しても大きな違いはみられなかった。

IV 考 察

1. 薬の利用に関する住民の態度の近年における

表16 健康への関心の高まりの背景についての見方（選択技法、質問順；4個以内複数回答）

選 択 肢	
・「自分の健康は自分でつくる」という自覚や意識が高まってきたため	38(55.1)
・生活が豊かになって、健康について今まであまり気にしていなかった人たちが関心を持ち始めたため	35(50.7)
・体の具合が何となく思わしくなかったり不調を感じたりする人が増えてきたため	20(29.0)
・病気になったときの生活や仕事への影響や家族への負担を考えて	27(39.1)
・環境汚染や食品添加物などに不安を感じて	17(24.6)
・ストレスが多い世の中になってきたため	37(53.6)
・生活がとかく不摂生になりがちな世の中のため	16(23.2)
・マスコミの影響が大きい	35(50.7)
・その他	6(8.7)
質問対象者数	69(100.0)

変化とその問題点

近年、住民が薬に対する正しい知識や利用法を身につけてきているのかについては、薬剤師の目には、近年、薬への関心が高まり、また、薬の知識や情報量も増加していると映っており、それに対して、肯定的に評価する傾向にあった。しかし、最近においても、薬の副作用を必要以上に警戒したり、薬に期待をかけすぎたり、また、医者にかかった方がよいと思われるのに売薬ですましてしまおうとする者が依然としているばかりでなく、近年は、薬の副作用を必要以上に警戒したり、薬に期待をかけすぎたりする者が増えているとする薬剤師が減っているという者より多かった。ところが、薬の副作用を必要以上に警戒することと、薬に期待をかけすぎたりすることの2つにしばってみると、薬の副作用を必要以上に警戒するという者が増えているとの評価が、薬に期待をかけすぎるといふ者が増えているとの評価よりもはるかに多かった。したがって、わが国では、戦後、多数の薬害事件が社会問題化したけれども、こうした薬害事件は、薬についての必要な警戒や関心を住民がもつという点で肯定的な傾向を生みつつも、反面では、薬への不信という否定的な傾向を

も引き起こしていることに注目しなければならないと考えられる。

薬に期待をかけすぎることの具体的な例については、薬ですぐ病気がなおると思っているとか、薬は何にでも効くと思っているとの回答以上に、生活調整をしないで薬だけで病気をなおそうとしているといった回答が多かった。すなわち、薬剤師は、従来の薬そのものに対する過信を問題にする以上に、健康不調に対して、その不調の原因となっているライフスタイルを変えることに住民がもっと目を向けて欲しいと注文していた。

住民が医者にかかった方がよいと思われるのに売薬ですましてしまおうとしていることの要因については、忙しくて暇のとれない生活がこれに関連していると指摘する薬剤師が多かった。これは、遠藤（1978）の住民を対象とした調査結果と一致していた。

2. 漢方薬・健康食品・ダイエット食品に関する住民の態度と問題点

漢方薬や健康食品、ダイエット食品に対する住民の需要や期待の近年の変化については、漢方薬を求める傾向が強まっているという者が半数いるのに対して、健康食品とダイエット食品については、強まっているという者と弱まっているという者がほぼ同数で評価が分かれた。薬剤師が住民の健康食品やダイエット食品に対する需要が全体として鎮静化しているとみたのは、次のような背景があると思われる。すなわち、1986年1月、厚生省が、医薬品のような効能効果をうたって健康食品を販売する（特にいわゆるバイブル商法）という行為に対して、広告宣伝の規制を始めた監視の徹底を図るよう、各都道府県を指導した。こうした企業に対する広告規制が影響して、これらに対する需要が全体として鎮静化したものと考えられた。

健康食品に対する住民の需要を支えるものとしては、マスコミの影響があるとの指摘が多かった。薬剤師が注目したマスコミには、医薬品と同じような効能・効果をうたい文句とした広告・宣伝が数多く載せられている（経済企画庁1984）。した

がって、健康食品の需要は、マスコミなどを通じて流される企業の宣伝・広告によって喚起させられている側面が強いと考えられる。

また、健康食品を求める傾向が強い性・年齢層としては、「中年」という回答が多かった。この年齢層は、他の年齢の者より、成人病など健康に対する不安や関心が一段と強いといわれている（健康・体力づくり事業財団、1985）。そして、中村（1983）は、成人病への不安やストレスの増大などの健康ニーズの高まりが、健康食品への需要と関係していると指摘している。このことから、中年層を中心に高まっている成人病などの健康不安も、近年における健康食品への期待や需要の背景に存在していると考えられた。

健康食品に対する住民の考え方や利用法については、問題が多いと指摘する薬剤師が漢方薬と比べて多く、その例として、医薬品のような効能・効果を期待するという指摘が多かった。このことから、医薬品のような効能・効果をうたい文句とした企業の広告・宣伝が、住民の間に、健康食品に対する誤った理解や利用法を醸成させることに少なからず関与していることが示唆された。

ダイエット食品については、これを求める傾向が強まっている性・年齢層としては、「若い女性」と指摘する者が多く、ダイエット食品の場合は、健康食品と異なり、近年、特に若い女性の間での需要が高まっていると考えられた。また、利用者の考え方や利用法の問題点としては、食事の制限をせずに、ダイエット食品だけで痩せようとしているとの指摘が多かった。すなわち、薬剤師は、肥満の解消のために、住民がもっとライフスタイルをかえることに目をむけてほしいと注文を出しており、薬への過剰期待の場合と共通する問題が、ここにも存在していた。

健康食品やダイエット食品とは違い、漢方薬の場合は、引続き需要が高まっているとみる薬剤師が多かった。その漢方薬の需要の背景については、住民が漢方薬の効き方が穏やかで副作用が少ないと思っているからと指摘した薬剤師が多かった。薬剤師が指摘した安全な薬を求めるという住民の

意識の裏には、いわゆる西洋薬による治療への危機感、不信感が働いていると考えられる。すなわち、宗像（1987）は、住民を対象とした調査の中で、伝統的治療法の利用者には、家族が漢方薬の治療効果を信じていることの他に、漢方薬以外の薬による治療に不安を感じている者が多いことを明らかにしており、本調査においてもこれと同様の結果が得られた。

漢方薬の考え方や利用法にどのような問題があるかについては、薬剤師は、副作用がないとか無害だと思っているという点を指摘していた。このことから、近年の漢方薬への需要の高まりは、薬の危険性に住民が目を向けるようになったという積極的な面をもちつつも、漢方薬の副作用を全く無視するという問題を引き起こしてしまっていると考えられた。

3. 近年の健康への関心の高まりの背景

以上のような薬や健康食品への需要を支える、近年の健康への関心や不安の特徴をどのようにとらえているかについては、薬剤師は、「ストレスが多い世の中になってきた」など健康阻害要因が多くなっていることと、健康への自覚や意識が高まってきたことの両方を指摘していた。以上から、否定的に評価できる不健康要因の増加とともに、肯定的に評価できる健康への関心や自覚の高まりの2つが背景となって、薬や健康食品、スポーツに関心が向いているといえよう。

V 要 約

本調査の対象となった東京都内の2地区での薬局・薬店の薬剤師は薬や健康食品に関する住民の態度とその変化および問題点を以下のようにとらえていた。

1. 近年、薬への関心が高まり、知識量・情報量が

付録 質問文

【1】まず、薬局・薬店についての基礎的なことをうかがいます。

問1. 先生は、この地域で薬局・薬店の仕事を始めて何年になりますか。

問2. 先生のお年は。

問3. お店の販売高の全体を10とした場合、A. 処方せん調剤、B. 大衆薬、C. 健康食品・自然食品・ダイエット食品、D. その他雑貨類、の各販売高割合は、それぞれどのようになっていますか。

増えているとみていた。

2. しかし、薬の副作用を必要以上に警戒したり、薬に期待をかけすぎたり、医者にいった方がよいと思われるのに売薬ですまそうとしたりする者も依然おり、そのなかでも、薬の副作用への過度の警戒が特に近年増加しているとみていた。

3. 漢方薬を求める傾向は近年強まっているのに対して、健康食品とダイエット食品については、それほど強まっていないとみていた。

4. ダイエット食品と健康食品の利用者は漢方薬の場合よりも、その考え方や利用法に問題が多いとみていた。

5. 近年の健康への関心の高まりの背景としては、健康阻害要因の増加と、健康への自覚や意識が高まったことの両方を指摘していた。

文 献

青山英康(1977): 健康ブームへの警鐘, 体育科教育, 25(9), 11-13

遠藤幸男(1978): 仕事量と疲労・健康, 労研維持会資料, 811, 1-15

伊藤公雄(1984): 日本人とクスリ, 宝月 誠 編, 薬害の社会学, 12-57, 社会思想社(東京)

経済企画庁国民生活局消費者行政第一課(1984): 「健康食品」の販売等に関する総合実態調査報告, 5-11

健康・体力づくり事業財団(1985): 昭和60年度健康づくりに関する意識調査

京都府衛生部薬務課(1982): 大衆薬及びいわゆる健康食品実態調査結果, 1-35

宗像恒次(1987): 行動科学からみた健康と病気, 204-205, メジカルフレンド社(東京)

中村陽子(1983): 「健康食品」について一上ー, 月刊薬事, 25, 2031-2035

内山 源(1982): 健康の考え方と生活との関連, 内山 編, 健康のための生活管理, 11-46, 家政教育社(東京)

(受稿 1988. 4. 2)

問4. こちらのお店を利用する方々は、地元の人が多いですか。それとも、その他の地域の人が多いですか。処方箋を持参した人の場合と、処方箋を持参しない人の場合のそれぞれについて、お聞かせ下さい。

【2】次に、薬に対する人々の考え方や知識や利用法を、先生がどのように評価なさっているかについてうかがいます。

問5. 薬の副作用について質問したり相談したりするお客さんは、4～5年前と比べて増えていますか、それとも減っていますか。

1. かなり増えている 2. やや増えている 3. あまり変わらない
4. やや減っている 5. かなり減っている

→付問1. 増えていることを、先生はいい傾向だとお考えになりますか。

1. はい 2. どちらかといえばはい 3. どちらともいえない
4. どちらかといえばいいえ 5. いいえ

→付問2. 減っていることを、いい傾向だとお考えになりますか。

1. はい 2. どちらかといえばはい 3. どちらともいえない
4. どちらかといえばいいえ 5. いいえ

問6. 薬の副作用などを必要以上に警戒し過ぎると、先生が思いになるようなお客さんはいらっしゃいますか。

1. かなりいる 2. ときどきいる 3. ほとんどいない

→付問1. たとえば、どんなことをおっしゃるお客さんが、それにあたりますか。(自由回答)

→付問2. そういうお客さんは、4～5年前と比べて増えていますか、それとも減っていますか。

1. かなり増えている 2. やや増えている 3. あまり変わらない
4. やや減っている 5. かなり減っている

問7. 薬に期待をかけ過ぎだと先生が思いになるようなお客さんはいらっしゃいますか。

1. かなりいる 2. ときどきいる 3. ほとんどいない

→付問1. たとえば、どんなことをおっしゃるお客さんが、それにあたりますか。(自由回答)

→付問2. そういうお客さんは、4～5年前と比べて増えていますか、それとも減っていますか。

1. かなり増えている 2. やや増えている 3. あまり変わらない
4. やや減っている 5. かなり減っている

問8. 医者に行った方がよいと思われるのに、なんとか売薬で済まそうとするお客さんはいらっしゃいますか。

1. かなりいる 2. ときどきいる 3. ほとんどいない

→付問. そういうお客さんがそうする理由として、多いものは何でしょうか。(選択肢による回答。選択肢は表6参照)

問9. お客さんは、全体的に見て、4～5年前と比べて、薬に対する正しい考え方や知識や利用法を身につけてきているほうですか。それとも変わりませんか。先生の全体的な印象でお答え下さい。

1. 身につけてきている
2. 変わらない
3. むしろ減ってきている

→付問1. 主にどんな点にそれを感じますか。(自由回答)

→付問2. 主にどんな点にそれを感じますか。(自由回答)

【3】次に、漢方薬を利用する人についておうかがいします。

問10. 漢方薬を求める傾向は、4～5年前と比べて、強まっていますか、それとも弱まっていますか。

1. かなり強まっている 2. やや強まっている 3. あまり変わらない

4. やや弱まっている 5. かなり弱まっている

→付問. 漢方薬を求める傾向が強まっているのは、何故だとお考えになりますか。(選択肢による回答。選択肢は表9参照)

問11. 先生は漢方薬に対するお客さんの考え方や知識や利用法に、問題があるなとお感じになった経験はおありですか。

1. かなりある 2. ときどきある 3. ほとんどない

→付問. たとえば、どんなことをおっしゃるお客さんが、それにあたりますか。(自由回答)

【4】次に、いわゆる健康食品(但し、ダイエット食品を除く)を利用する人のことについておうかがいします。

問12. 健康食品を求める傾向は、4～5年前と比べて、強まっていますか、それとも弱まっていますか。

1. かなり強まっている 2. やや強まっている 3. あまり変わらない

4. やや弱まっている 5. かなり弱まっている

→付問1. 健康食品を求める傾向が強まっているのは、何故だとお考えになりますか。(選択肢による回答。選択肢は表10参照)

→付問2. 性・年齢別にはどういう人に対して、そうお感じになりますか。(自由回答)

問13. 健康食品を利用している人たちは、健康食品についての情報を、主にどこから得ているようですか。(選択肢による回答。選択肢は表15参照)

問14. 健康食品に対するお客さんの考え方や知識や利用法に、問題があるなとお感じになった経験はおありですか。

1. かなりある 2. ときどきある 3. ほとんどない

→付問. 問題がある考え方や知識や利用法とは、例えばどのようなものですか。(自由回答)

【5】次にダイエット食品を利用する人のことについておうかがいします。

問15. ダイエット食品を求める傾向は、4～5年前と比べて、強まっていますか、それとも弱まっていますか。

1. かなり強まっている 2. やや強まっている 3. あまり変わらない

4. やや弱まっている 5. かなり弱まっている

→付問. 性・年齢別にはどういう人に対してそうお感じになりますか。(自由回答)

問16. 健康食品を利用している人たちは、健康食品についての情報を、主にどこから得ているようですか。(選択肢による回答。選択肢は表15参照)

問17. ダイエット食品に対するお客さんの考え方や知識や利用法に、問題があるなとお感じになった経験はおありですか。

1. かなりある 2. ときどきある 3. ほとんどない

→付問. 問題がある考え方や知識や利用法とは、例えばどのようなものですか。(自由回答)

【6】健康ブームといわれる現象に対するご意見をおきかせ下さい

問18. 健康への関心が強まっているとか、「健康ブーム」だとかいわれていますが、それらをどのようにお考えになりますか。(選択肢による回答。選択肢は表16参照)